

2012 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	文学部	身分	教授
氏名	大田 美和		
NAME			

1. 研究課題

(和文) 近現代イギリスの文学と文化における「おば」の力

(英文)

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度)

(和文) フェミニスト批評によって明らかにされたイギリス小説に表れた父権制の研究を補完・発展させるものとして、本研究では、傍系血族や血族ではない親密な関係が父権制に対して果たした役割を明らかにすることをめざした。

研究 1 年目はフェミニストで社会活動家の Barbara Leigh=Smith Bodichon ゆかりの Girton College の女子教育を Newnham College と比較する口頭発表を行い、子を持たなかったボディションと若い世代の交流について考察した。

研究 2 年目は日本オースティン協会大会シンポジウム「200 年後の *Pride and Prejudice*」(於 関西大学 (2013 年 6 月 29 日) における口頭発表「Elizabeth Bennet の結婚によって変わったもの、変わらないもの」では、ヒロインのおじとおばに着目して、新しい富を持つ傍系の血族が伝統的地主社会の変化と維持にいかに関与しているかを考察した。現在この発表に加筆修正した論文「Mr. Gardiner から読み解く *Pride and Prejudice* の新旧両勢力の力学」を執筆中。

また、エリザベス・ギヤスケル没後 150 周年記念論文集『ギヤスケル短編研究』(仮題) に収録する論文「ギヤスケル短編におけるおばの力」を現在執筆中である。

レズビアン女領主 Anne Lister についても研究を進め、講義科目「イギリスの文化(2)」でその成果を学生に還元できた。これから口頭発表と論文化をめざす予定。

(英文)

4. おもな発表論文等 (予定を含む)

<p>【学術論文】(著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月)</p>
<p>大田美和「Mr. Gardiner から読み解く <i>Pride and Prejudice</i> の新旧両勢力の力学」(執筆中)。</p>
<p> </p>
<p> </p>
<p> </p>
<p>【学会発表】(発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月)</p>
<p>大田美和「ケンブリッジの女子教育——Newnham College と Girton College を中心に」新英米文学研究会個人研究発表会、早稲田奉仕園、2012 年 12 月 15 日。</p>
<p>大田美和「Elizabeth Bennet の結婚によって変わったもの、変わらないもの」日本ジェイン・オースティン協会全国大会、関西大学、2013 年 6 月 29 日。</p>
<p> </p>
<p>【図 書】(著者名、出版社名、書名、刊行年)</p>
<p>日本ギヤスケル協会、大阪教育図書、『ギヤスケル短編研究』(仮題)、2015 年刊行予定。</p>
<p> </p>
<p> </p>
<p> </p>
<p> </p>
<p>【その他】(知的財産権、ニュースリリース等)</p>
<p> </p>
<p> </p>
<p> </p>
<p> </p>